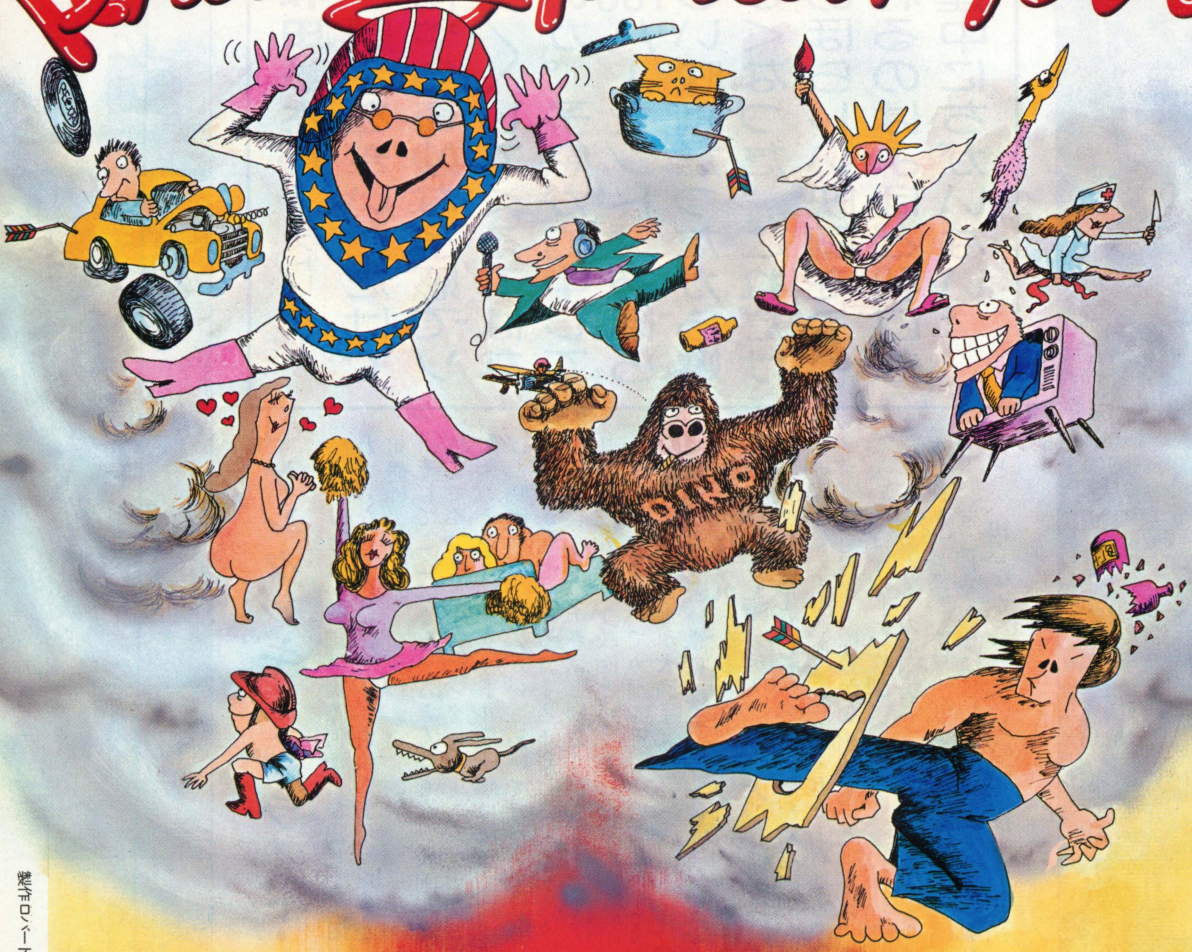


THE Kentucky Fried Movie



こころが空腹なら
こいつはどうだ!
ボリューム満点笑いのランチ!

ケンタッキーフライド・ムービー



製作ロバート・クニツ、監督ジョン・ラング、構成脚本デビッド・ズーカ、サム・エイブラムズ、シェリー・ヌーカー

日本ヘラルド映画 カラー作品

〈特別出演〉ジョージ・レーゼンビー/ドナルド・サザーランド
マリン・ジョイ/ソウル・カーン/デビッド・ズーカ/エド・グリフィス/ビクトリア・キャロル/ヘンリー・ギブソン/ビル・ピクスビー

ケンタッキー・フライド・ムービー

THE KENTUCKY FRIED MOVIE

和田誠さん(イラストレーター)

題名をきいただけで何やら奇妙な予感でゾクゾクしてくるではないか。予感的中して100パーセント、あほらしい映画だったから嬉しくなった。これだけあほらしい映画をつくれるのはよほど利口な連中にちがいない。

「ケンタッキー・フライド・ムービー」は感じる映画です。

アメリカという国は実際何がとび出してくるかわからない。未知の楽しみ、自由な表現、尽きない可能性の魅力。

そしてここにまたくともない映画が海を越えてやってきた。「ケンタッキー・フライド・ムービー」という妙なタイトルの映画は決して油で揚げた映画のフィルムというわけではない。

誰もが知っているコネルおじさんのケンタッキー・フライド・チキンと同じく、ものすごくアメリカ的、大衆的な映画というわけだ。

サラットとしていてカラツとしていて味がよく、食した11観たあとが大満足。

アメリカの若い感覚、爆笑ギャグ集というわけ。全篇が22コからなるギャグ、コント、パロディの笑いの箱詰めキャンディ。そのすべては現代のTVプログラム、TVCF、ヒットした劇場映画、映画の予告篇、PR映画etc、ありとあらゆる映像メディアをベースに豊かなイメージとアイディアで笑いとばす楽しい喜劇。

ブルースリーのそっくりさんが大暴れする「燃えよ鉄拳」とか、「タワーリング・インフェルノ」と「十戒」をごちゃ混ぜにしたような、超大作の予告篇とか初心的なカッパルのために教授する「セック

スレコード」とか、笑いのタネにはコト欠かない。

キミはこの中でどれを一番面白がるかな?

この変テコな映画をつくったのは27才のジョン・ランデイスという若もので彼は16才のときから8ミリを廻しはじめたという映像の申し子。ご多聞に洩れず、TVコマーシャル出身である。若いからイメージは泉のように湧いて尽きない。それを表現するエネルギーもたつぷりだ。

77年にアメリカで封切られるとジワくくと話題を集めて急上昇。大ヒットとなった。

これはドラフト12位ぐらいで入団した新人がいきなり3割を打ってベスト・テン入りしたようなものである。恐るべき新人というわけだ。

22コのオハナシがそれく若ものの口コミを伴って話題を広げていったからである。

出演者はほとんどノースター、ランデイス監督の友人、ジョージ・レーゼンビーとドナルド・サザーランドがワンカットづつ特別出演している他はほとんどがTVタレントや舞台の人たちのようである。

さあ、それではケンタッキー・フライド・チキン、じやなかった、ケンタッキー・フライド・ムービー、笑いのランチをどうぞ!

近日爆笑の大ロードショー!

有楽町 スバル座 (212) 2826

